

六諭衍義大意

9

3720



三才圖會

操存舍心



昭和十五年五月三日
井島謙吉氏贈

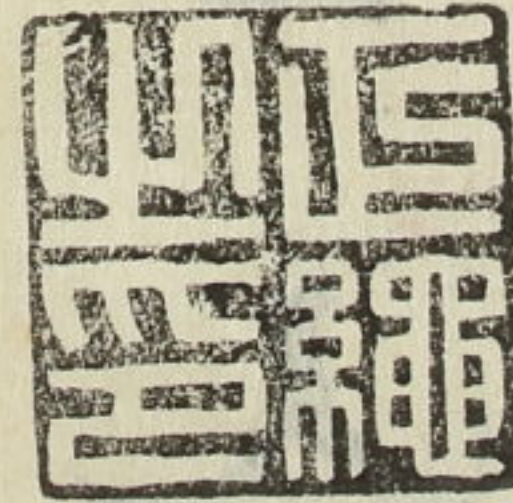


六諭 衍義大意

孝順父母

凡世間およそ有ある人ひと生なまなくく賤いとき好よく

藤原正繩



父母のうへにゐる人やある。それい父母を
我身れ出来し本なり。い本を忘る
師し事あり。況や教育の恩よりと
高く海よりも深し。いしてある。よ。
今をいよ本つとあるは。父母の恩哉
よくこれふべし。先十月のる懐胎よ

あつうーあり母と若ーむ。うそ生し出く

幼稚れやどい。父母うそに魚取銀難辛苦

成いらず。つねりあうさうせをもいひて

抱きもてあー毛病あつうがー

あまー神ふいのり。醫をりやめ。こう身

毛かとり度やふたりひ唯子乃息災く

して成長せいちやうも命いのちを満みちよりおおい何なんの形かたちひら
ある。其子やたそ那なくなれ。またためふ
師し成せい撥はくひ藝げいを習しゆふ。よれ人ひとのもあし
ふふひ。歌うたをえたしむ。国くにふあまの縁えん成せい求もとめ
婦よめをむく。業わざの志しをあらひ祈いのふ。又
世よふ立たちまゝ命いのちを見く。武ぶの意いを友ともふ。まゝの

き。或いふ^{ひな}恵乃^{えん}難^{なん}くそあらん^んと。いま^い目^めに
見^みえぬ^え車^{くるま}まで^まえ^えた^たえ^えす^す心^{こころ}苦^{くる}く^くふ^ふ程^{ほど}ふ。
す^すて^て一^{いつ}生^{せい}け^いい^いと^とみ^み何^{なん}車^{くるま}う^う子^こ乃^のた^ため^めく^くま^まぬ
車^{くるま}や^や何^{なん}き^きの時^{とき}う^う子^こと^とた^たの^のも^もぬ^ぬ時^{とき}や^やあ^ある^る。毛^け
られ^られ^れ厚^う愚^ぐた^たら^らひ^ひ報^{ほう}く^くは^はく^くも^も責^せて^てな
り^りふ^ふて^てあ^ある^るふ^ふよ^よ車^{くるま}あり^り。其^{その}な^なり^りと^とま^まし。

貧富を越えあつゝ不図あれ。必し一を

父母乃衣食衣結構にきよと云ふと何

す。唯無限お恵ふ父母れ飽暖なるやうと

とて。父母年たけく後大く側をとも

まじ。お入ふ手とむきう。海城か一寝起

ふ。夜とあけ。朝省。父母と病

あゝ、昼^{ちう}夜^や常^{おび}候^うかす。他^た事^じを捨^すて看^ん
病^{びやう}醫^い藥^{やく}れ事^じに乃^の心^{しん}候^うつゝすべし。はて
弟^{てい}一^{いつ}に心^{しん}得^{とく}し事^じに、いふやと父母^{ふぼ}れ身^みを孝^{かう}盡^{じん}
すべし。ま心^{しん}候^う安^{あん}ぜいしゝて、大^{だい}なる不^ふ成^{じやう}と
いふ候^う。何^{なん}れも父母^{ふぼ}乃^の教^{けう}訓^{くん}ふきとづゝす。
世^せ法^{ぽう}をおりん。よく身^み候^う守^{まも}り。家^け候^うたえ

つづ。其ふれかくのまゝくなると見て、父母の
心中こころいふほどの安堵あんどういふほどのうれしきところある。
是を父母乃志し城じやうと云ふと云ふあり。まゝ常じやうより
おろし難がたし。おろしむといふ父母存生ぞんじやうの日なる。
車くるま城じやうと此時り及いたて。孝けう老らうをいささず。父母
死しして後のちいふ悔くわいうもかへる難がたし。やたらひ山

海に珍^{ちん}物^{ぶつ}とるあ^たく^{たけ}ま^{まつ}向^{むか}ふ^ふともい^いある^{ある}時^{とき}乃^{なり}

蔬^そ菜^{さい}ふ^ふた^たと^とる^るべ^べい^いま^まれ^れ今^いの^の世^よれ^れ人^{ひと}父^{ちち}母^{はは}の

者^{もの}城^{しろ}大^{だい}切^きれ^れ車^{くるま}に^にお^おり^りし^しる^るや^や最^{さい}愛^{あい}の^の妻^{さい}子^した^た

ま^まう^うと^と妻^{さい}子^しに^に失^しく^くも^も又^{また}得^えべ^べい^い。唯^{ただ}一^{ひと}を^をび^びう^うい^い

ま^まふ^ふく^く娘^{むすめ}を^をび^び得^えう^うう^うう^うふ^ふり^りの^の父^{ちち}母^{はは}あり^{あり}人^{ひと}の

子^こた^たる^るま^ま是^{こゝ}城^{しろ}た^たり^りも^もい^いう^うて^て孝^{たか}心^{しん}と^と起^{おこ}さ^さる^るは

毎きとの世や老いありと見ゆる人も大か
き哉めり。子をりては身にあれば。眼^{がん}前^{ぜん}き
乃^お愛^{あい}ふむれて。おのづから朝夕^{ちゆうせき}れ動^{うご}きたま
ふると。多^{おほ}くやとたふも思^{おも}はす。もしよの
らぬ妻子にあつて。いつとねく父母^{ふぼ}乃^お愛^{あい}ふ
車^{くるま}哉^{かな}ふかとふ。ま言^{こと}ふ耳^{みみ}に。いり心^{こころ}づも

まじ^{おれ}にも父母をうとむ心ふちなりぬるをそ。
りふもあはれ——さ車あはれよくさみよ。我
身十四み兼よてい。妻といふのもね。
子やいふのもなり——此時我と共^あ育^いき——
人きけ人きや。あはれ女抱^うせ——人に何人きや。
然るに父母ふくむ。あはれ女抱^うせ。あはれ。

魚は鳥は鳥は魚は魚は。人々て不孝ある人々。
本心まゝえりて。禽獸もをねりたる也。
いふ。魚は。ぬくおる。いふ。車なり。

敬長上

おより今に。あるよ。て。かく。は。り。大。あ。れ。

世界せかいのくむりにながき人民じんみんなれども
その禮義れいぎふよりてはるまゝと知しべし。
いうがらみも礼義れいぎをもつて主従しゅじゆん上下
乃しか差さおとたり。年としをうのなる人ひととあき
人ひとの兄弟けいだい城しろみまぬ事ことなり。なうんばく
主従しゅじゆんを重おもしむ事ことあるまじき。主しゅ介かい第だい一

て立派なる者。世よはゆる事なり。
未^まく^もあても。主従の間^まをのほろ^ろ禮義と^んぬ
まゐる。けし。けし。主人城^{えん}を^けする者。人の
み^みあ^ある事なれ。いと更^さに^にふ^ふ及^及るに。
是^こよりて父母に孝行するにき^き次^次る。長
上^{かみ}城^{えん}を^を教^{おし}す。そ^そと^とい^いふ。

我よりほなまなり。又位たう。我よりある人
哉ふ也。より一歳ふくいう。男あん女よめをいふ。我
親おや方かたある人。是より長上あり。但ただ一上を
尊敬する道。我親おや——兄あにより始はじるべし。
我親おやか我より先さきり生うれて。遂ついふ父ちちり
代かる人あり。父母り次つぎく敬うやまつふこと。兄あに

いあらずや。たふひ父死して別宅に居る

と。是為ふ本家哉。たりんず。家然哉。

配分する事。相違ありとも。今く兄乃裁

判り。志こふ。是れおふより。

兄才れ。志こふ。失ふ。是れおふより。

らす。て。我り。非乃と加る。始終才たる。

道城はくして兄をうむむす。まか

父方母方ともに一族のうら年をうけ人を

うむに禮義城はくして祿んおろよ

まぐいさうに禮をうすうらにいふれ

今の世れ人親族乃思うすくして長と城

常なる車城あうさるや。武をあ子の語よまよ

ひ或ち貸財^{かさい}に秋^{あき}よむれ^く。やもすまは不和
りなり。もてい兄弟^{けいだい}親族^{しんぞく}たりひよけ^くひ
ふはむ^へ。天性^{てんせい}骨肉^{くうにく}れあ^く。みも血^ち愛^{あい}一
く仇敵^{きうてき}のお^く。い^やあき^し一^し起^{おこ}事^{こと}あり。又
他人^{たにん}ふ^くい^く。其^{その}年^{ねん}齡^{れい}日^ひが父^{ちち}と同^{どう}輩^{はい}なる人
をい^ふ。父^{ちち}は準^{じゅん}一^して教^{しよ}ふ^べ。我^{われ}兄^{あに}と同^{どう}輩^{はい}ある人

といふ準——く敬ふ也——。孔子^{こうし}郷村^{きやうむん}におい
し——て一族^{いちぞく}乃^{すなは}ち合^あふ。乃^{すなは}ち城^{しろ}にけり。
唯^{ただ}——とたふとけり。聖人^{せいじん}さかのごとく。
況^{いは}や^やた^た倅^{さい}の人^{ひと}も——と^と驕^{たか}りあがたりたる。
物^{もの}もあひあはへ——す。坐^ざするところも下^{しも}に坐^まし。
乃^{すなは}ち時^{とき}に^に^に^に行^ゆ也——。やうそめふも長上^{ちやうじやう}城^{しろ}さ

一六ゆるり何るへに。長上乃前少て口に
まかきく言言。真ふせう。てたむむ
事する。はねる。後なる事あり。是城い
む。又長上乃中ふくまひに。人乃
鏡とある人。いふ。これより。其外。能わ
る。人の師。通ふ。ある人。いふ。て。是を

ぬふー。又我より位高き人。たゞ年弱ふ

ー。材速ぬーといふも。すでに我よりた

人より。是又長上あり。常に禮義と爲して何

れもあはれぬ。はれぬ。ー。より

位なる人。賢徳ある人。も年ある人。あはれぬ。の

を。天に。わ。あ。人

まふなり。後乃世に至りて時勢ふはるて位
まふ人となりて。先城うやまひ徳と
うやまふ。或は志す。ぬく。黙く。言事也

和睦郷里

凡都鄙城論を以て。同郷村に住居する人
先祖以来たよなり。かゝる互に久く別居せ

し。ち。助。目。ち。ち。わ。ち。ち。す。ち。ち。ハ

他にありて。我故郷の人ふあまたいふなり。

親族れりひをあすべ。是ふて同

郷村の人々をに疎畧ふまづうづがふ事と爲る

いふなれは、今世の人。一旦乃いり。又いづる。

志欲ようによりて。日ら爲のうゝみ緩わさるゝや。

りつと嘆か——さ半なり。或は田宅乃畧城

わらふ。或は重銀の債城もろろ。双方怒りを

おろ。遂に公率所江もたふ。やう。

一郷のさうだうもなる。其——め紙

きほぬ。我方にいさす。んよりたこり

常におろき城走——て。人を能——。已

利をのこさるゝ人の害坂が下りて元より我
身のため成れり。人おふ同くあつたり。
はるふ人うてなまけをさぬ。木石にたおし。
けり。人のふをさひたりて。あつたり。を
さるゝ。唯我も人もさうふと心得
る。あつたり。和睦きうん。但し大

学にも。形紙出ずして教をふふなほとありハ。

まの我一家れむつと。たとふとまへ。父

母に存り。長よ志とふ。乃ち。前。福

すき。いと又ふにおもふ。次よ。夫婦の道

城主。いと。いふ。へより。妻。城主。と。さ。ち。

中ふ。大法あり。婦人。淫乱ある。男。始。は。けり。

あつちゅう

して。考に愚りあるをも志せず。或る其
妻はけさる妻たるに。多年のあつちゅうはす
きくす。ねく難あするも。いつづまとい

う。乃法にたうして。家のたさやうさふと
いふ。又在家れ人。父死く父の
妻はたさるも。あつちゅう。人倫をみる。あ

法を破るといふべし。また外道の親類の後

教と善とほむ事。いふまでもあるはうご

事なり。たゞ我郷村にある人々。是らのふ

城相たぐひり味すべし。さておまゝなるれ

道といふ。きによろこびを述

る。いひて同きなりたるものといひあ

りつと礼義致すべし。其の如く
城にすべし。水火盜賊不慮れ難あらず互に
合力し多。海分もくひたすべし。其跡乃
あつた人をばく度も祓んぬる練べし。
賢徳ある人をも敬ひ。其間ある人をハ親し
み。材藝ある人をハ才めあつて。其能ある人

と、いふえ、誘^{おほ}さ。あゝ、さういふはたふ、者^{もの}とて、うら
あつうひ。慈^{あは}ひし、志^{こころ}の、む人^{ひと}を、いふひなく、え。
孤^こ兒^{ども}、寡^ふ婦^ふ、老^{ろう}病^{びやう}か、こゝにある人^{ひと}と、いふ、みづと
まゝ、こ。困窮^{こんきゆう}、ま、われ人^{ひと}を、まゝ、娘^{むすめ}、いふ、まゝ、あゝ。
あゝ、こゝ、二郷^{にきやう}の人^{ひと}お、まゝ、いふ、合^あへ、こゝ、一、家^{いへ}、れ、親^{おや}、と
り、お、ね、い、まゝ、ん、い、う、そ、れ、睦^{もく}、ま、ち、る、ま、や、あゝ。

海三。

教訓子孫

凡在家たいけ少すくも子孫こそん成なりたり。と云。子孫人々

ふけきち家もおあり。人々何々ありと。

家と喜よろこふ。是ら人のある事あり。大たい家小せう家

ともに難なんう子孫乃ふさ成なりたりと云。後

子孫^{しよん}を^{しよ}ま^また^たの^のう^うら^らふ^ふて^ても^も死^しを^をし^しめ^める^る必^{かならず}ず

教^{けう}訓^{くん}ふ^ふる^るべ^べし^し。ま^ま教^{けう}訓^{くん}の^の法^{ほう}ハ^ハ幼^{えう}稚^ちの^の時^{とき}を^を

弟^{てい}一^{いつ}一^{いつ}父^ふ兄^{けい}よ^よは^はは^はる^る。年^{ねん}を^をけ^ける^るを^を

し^しぬ^ぬふ^ふ道^{みち}成^{なり}志^し。一^{いつ}死^しさ^さる^る。玄^{げん}結^でハ^ハ偽^{いつはり}り^りあ^ある

や^やう^{やう}ふ^ふい^いし^しめ^め。起^{おこ}居^おる^るか^から^らに^に静^{しず}か^かる^るや^や

ふ^ふい^いし^しめ^め。年^{ねん}を^をけ^ける^るを^を

卷之五

胡こ夕せき市いひ入いり

他 ぎやう

飲食衣服

勿論

好 22

級

費^{シヤ}す事あゝゝゝむゝゝゝに古^コより朱^{シュ}よ^ヨ

づけ^アい赤^{アカ}く。墨^{スミ}に玉^{タマ}法^{ホウ}多^タく^ク^ハ^ハや^ヤい^イなり。

かりふも遊^ユ女^{ニョ}情^{セイ}交^{コウ}の場^バりあそ^{アソ}く^クゝむゝゝす。

強^ハ弱^{ニョク}浮^フ氣^キの半^{ソウ}にゆゝゝゝむ^ム魚^{イサ}ゝゝす。たふ

孝^{コウ}文^{モン}とけ^ケきく。聖^{セイ}賢^{ケン}れ道^{ドウ}義^ギ志^シゝゝゝむ^ムべ^ベ。然^{シカ}

ら^ラい^イも子^コの生^ナ質^{シツ}ふ^フよりて。後^コ日^{ニツ}に徳^{トク}を^ヲは^ハく。名^ナ義^ギ

あつて。世も用ひらるゝ程ななり。又と

世にほふまゝすとも
 又、城守り。家をとつ

出やなるとのあふふ。
 まきで女子ハ縫針のりま

杉
 中
 及
 ず。

し。ゆゑに徳儀に負任するやうにと教訓を

し。我々成長の後人の故郷とありきと。

男姑おやぢは之これにおつてたうひ。下部しもべの女おんなまでもたう

あゝ。家内うちとわをけうう。あかくあか整昌とやうを

福さいふともなりぬ。近代きんたい以来いらい先祖せんぞをもつ者もの。教訓

乃すなは法はふ戒かい志しす。其子孫そのこそんをもつはるはるとあり。

唯眼ただがん前ぜんの老おいに溺おがる。一切ろく飲ちん食しょく衣い履ふ玄えん結くわを

勤きんあゝ。小兒せうにの氣き池ちよす。故ゆゑあゝ。是こゝに

しりて子孫をうる志。如^{よう}少^しなり一言^{いちごん}れど紀^き括^{くわ}氏^し

三^{さん}うず。一^{いち}毛^{もう}乃^{なり}好^{こう}事^じとみす。も智^ちづ^づ僻^へとあ

ま。放^{はう}逸^{いつ}をの^の好^{こう}く。假^{かり}ふを礼^{らい}義^ぎの^の一^{いち}ふるを

あ^あず。たあ^{たあ}。孝^{こう}文^{ぶん}を^をも^もむとい^いふも。人^{ひと}なるを

あ^あん^んと^とま^まひ^ひして。只^{ただ}是^{これ}た^たの^のつ^つく^く名^な利^りの^の嫌^{きら}をす

ふ^ふふ。其^{その}子^こ孫^{そん}た^たら^らい^い孝^{こう}文^{ぶん}を^をや^やい^いふ^ふも。乃^{なり}理^り

「おゝ。何を自得とくも。我わ身のおこみひり

れぬ。何なの益えきあらん。さ。ほふ。或あるは質しつ成せい成せい

貪むさり。或あるは酒しゅ色しきは妬ねたり。た。む。悪あく名なとやり。

所ところと持もく。保たもて。父母ふぼに疑ぎをかする。そ。う。

又また女子けうにも。衆しゆにある。そ。う。又また訓しんの法はふ。氣き随ずい

り。そ。う。に。人ひとふ。嫁よめして。も。あ。げ。お。も。

車^{くるま}がね^をす^て。追^{おひ}出^ださ^る者^{もの}も世^よに其^{その}を^を免^{まぬ}る

ね^え。是^{こゝろ}ね^えび^し。そ^の子^こ孫^{そん}の^もふ^もあ^るす。

ま^もみ^れ教^{きやう}訓^{くん}乃^の法^{ぽう}た^ふゆ^り。志^しれ^ば親^{おや}れ

悲^{かな}み^もそ^もむ^くに^にあ^るす^や。孔^{こう}子^しも^も子^こと^と愛^{あい}を

と^と。昔^{むかし}勞^{ろう}故^こは^はき^きと^と憂^{うれ}ひ^ひ。の^のう^うと^とあ^ある^る。ふ

車^{くるま}ね^えり。

各安生理

天地乃間小生を育むの人。其機矣富城満る

事非く。人我にあつたる。取也あり。是わ

生渥は清くて定りたる道理なるゆに生理

中なつ。此生理ふおち清くて。外城のいあ

城。各生理をやせんするといふなり。あつた人の

武^ぶ城^{じやう}といふていふ。先^{まづ}士^したる者^{もの}は孝^{かう}文^{ぶん}といふ武^ぶ
藝^げ城^{じやう}たり。なる。義^ぎ理^りをわめし。公^{こう}設^{せつ}をつむ。
是^{こゝ}に生理^{せいり}あり。次^{つぎ}に農^{のう}人^{にん}は耕^{かう}作^{さく}をほめておほ
く事^{こと}に奉^{ほう}貢^{こう}をせし。職^{しやく}人^{にん}は家^け業^{ぎやう}を精^{しやう}く
く。兩^{りやう}傳^{でん}のなるといふ。商人^{あきんど}は賣^う買^{かい}
を以^{もつ}て。非^ひ分^{ぶん}れ利^りをとりやめず。わく此^{こゝ}の

氏^{たみ}ととに。吾^{われ}志^{こころ}成^{なり}たふ^はく^く。我^{われ}ふ^ふ當^{あた}り^る。

職^{しやく}分^{ぶん}は^はく^く先^{せん}と^と。あ^あつ^つつ^つ我^{われ}ふ^ふ當^{あた}り^るた^たる^る衣^い食^{しょく}。

あ^あり^りて。一^{いっ}生^{せん}安^{あん}穩^{えん}ふ^ふく^くく^くす^す。外^{がい}事^じり。

あ^ある^る産^{さん}業^{ぎやう}あ^あく^くく^くて。負^お担^{たん}日^{にち}傭^{よう}な^なく^くて^て世^よを

わ^わる^る者^{もの}あ^あり^り。い^いや^やく^く語^ごふ^ふも^も天^{てん}より^{より}食^{しょく}物^{ぶつ}あ^ある^る。

人^{ひと}と^とは^は生^{せい}せ^せひ^ひと^とい^いふ^ふ。是^{これ}ら^らの^の人^{ひと}を^をた^ため^める^る。あ^ある^る。

くかき記きふせ。我ふありたる夜食あどくな
うる。又女人も生理あり。右（きき）主乃
后^{きき}。手^てばつゝ蟻^{こひい}繰りて。衣^い被^う被^うはるとい（
王^{いん}。況^{いん}やそれより。中^{ちゆう}れ人^{じん}いさかおこる。海^{かい}の
らず。おもむき在家^{ざいけ}の婦女^{ふにょ}の義^ぎ親^{しん}は好^{こう}ます。遊^{ゆう}
戯^ぎをたのしむ。たに校^{こう}どりその縫^{ぬい}とて。被^うつと

父母くおさ。たそく寝て辛^い苦をみはくくそ也
一。星^{おん}女乃生理^{せいり}あり。只^{ただ}嘆^{なげ}（さ）世^よ上^{うへ}の人男^{おとこ}女^め
中^なもに。幼^お少^うより氣^き随^ずよそど侍^し由^ゆ（ふ）年^{とし}長^{なが}一
も後^{のち}も。なるみおころて。我^{われ}に當^{あた}りたる職^{しやく}分^{ぶん}の
事^{こと}成^{なり}あつたふおろす。目^め前^{ぜん}のたのしみ。むあ
く。目^め成^{なり}たふも。おほく。な。ん。は。く。富^ふ貴^き

乃家^{ごう}ふ^ふま^まう^う人^{にん}ち^ち。かつ^{えん}く^{えん}艱^{えん}難^{なん}を^を憂^{うれ}ひ^ひ。常^{じょう}と

おほく^{おほく}の所^{しよ}從^{じゆ}ふ^ふ。つ^つれ^れ。英^い服^{ふく}身^みに^にま^まう^うい^い。

厚^{こう}味^み口^{こう}に^にあ^あく^く。い^いの^のあ^あく^くも^もか^かく^く。ま^まう^うと^とあ^あそ^そ

あ^あふ^ふら^らめ^めと^と。一^{いつ}且^じ時^{とき}う^うつ^つり^り勢^{せい}ひ^ひさ^さり^りぬ^ぬき^きし^し。過^すふ^ふ

一^{いち}富^ふき^き多^たく^く一^{いつ}宵^{しよ}の^の憂^{うれ}ひ^ひ。て^て。日^ひあ^あぬ^ぬ胞^{ほう}癢^{やう}よ^よ

く^くく^くく^く。伊^いれ^れ材^{さい}藝^ぎも^もお^おく^く世^せ話^わに^にう^うう^うや^や

あれた。溺^ひふおらぶまで。鹿^{しか}氏^しよりむじ
よりまため。ねふあゝ。まゝ。きく。ね
ふ人^{ひと}。ねらゝ。ねほびら。き。一。回^{かい}。う。て。け。き
或^{ある}を遊^{あそ}女^{よめ}にきく。ふ。き。或^{ある}を情^{じやう}変^{へん}とねみ酒^{さけ}。
む。う。り。通^とり。溺^ひき。並^{なら}夜^や家^か果^{くわ}ねす。う。れ
あ。ふ。か。う。た。う。て。家^か姓^{せい}もつ。う。て。朝^あ夕^{しやう}のい

これをもさぐさやうなされち。たのひのかふ
悪事^{くさ}城^{しろ}をくみいごて災難^{さいなん}いあふもあ
ぢかゝ。また遊樂^{ゆうらく}とぬじよ。いづれ福^{ふく}をも我
職^{しやく}分の事^{こと}城^{しろ}一筋^{ひとすぢ}にまゐる海^{うみ}を泳^{およ}ぐ。他人^{たじん}
乃^{すなは}ちあゝき返^{かへ}うゝや。非^ひ分の事^{こと}をのぢふ
人^{ひと}あり。いろゝちあゝとめくゝひと。いづれも必^{ひつ}竟^{けつ}

やう志ある心なれど。遂はよるを好

あふせる事。是これも名利うりのあは

より。あはせる事。故ゆゑぬゆある。と

とる。貧富ひんふも。賤せんも。天命てんめい定りて。何なんいふて

人乃ひと力ちから少く。あはる。唯ただ我われり。あは

まふ。職分しやくぶんと勤つとめ。目に好このみ。故ゆゑに。今いまより

行先とふ^や屋^{さき}つゝず。方町^{まん}の田^り城^ぢ持^もても日^ひく
食^くもるも。三^{さん}度^どに^もき^きず。子^こ間^{かん}の度^い小^せ位^ゐてを
夜^よ乃^{なり}眠^ねを八^は尺^{じふ}に^もち^ち海^{かい}と^とり^りれ^れる^る為^{ため}に^にあ^あふ

幸^{さい}たるやう^{やう}候^{こう}わ^わく。外^がと^とり^りも^もう^うあ^あわ^わ。
魚^うう^うび^び。あ^あう^うは^はな^なと^とう^う生^{せい}理^り城^ぢや^やす^すん^んも。
車^{くるま}ゆ^ゆる^る子^こ地^ぢ。

母他非為

天下にあつての事とも。窮まりぬとて

とて。すなはち是非乃てあり。是れをさす理

ふ。是れをさす理。道理なり。さびくは是非と

は。これに非があらば。さす。と非なり。今其

非を考へて。いふに。是非強盗人とあらう。火賊

はるやうある幸といふおもしろ。世女
溺る情変成たのしと。碎狂を。喧嘩を好
み。私慾をかま。貨財を貪る。もろいみもある。
恥るといふ事。も起り。いふ事。乃ちより。ぬ
や。覚悟と起りて。お目えす大悪もある。
い。世は法成に。罪に陥る人もあり。

身^みとか海^{うみ}月^{つき}。家を破^{やぶ}る人も有り。ま時^{とき}ふ
至^{いた}り。こそ後悔^{こうかい}す。めと。我^{われ}と柳^{やなぎ}な
事^{こと}ふく。我^{われ}と受^うなる禍^{わざはひ}なれ。誰^{たれ}をが怨^{うら}む。
後^{あと}をうそのめん。然^{しか}るに前^{ぜん}車^{くるま}の度^{ほど}。或^{ある}見^みて
老^{ろう}思^しと何^{なん}撥^{はく}もあ。海^{うみ}より。かつ。後^{あと}事^{こと}
乃^ないま。の波^{なみ}志^し。び。世^よれ。讀^{よみ}ふも。夢^{ゆめ}れ。思^しを

どうして禮を乱^らし。法^は破^やるもの所^{しよ}を考^{かん}

るに。わくは。此^これ車^{くるま}ふあうる船^{ふね}。又^{また}生^な

質^{しつ}来^き弱^{じやく}る人^{ひと}。平^{へい}生^{せい}た。あうりて。月^{つき}日^ひ改^か送^{そう}る

月^{つき}ふたあ。日^ひあ。れ。非^ひを。は。れ。る。多^た

年^{とし}あ。や。ま。り。来^きき。今^{いま}より。何^{なに}うた。の。悔^{くわい}も。

車^{くるま}の。やうに。ま。つ。あ。う。て。う。ら。捨^{すて}ぬ。人^{ひと}。何^{なに}。

大なる也ひぐるといふ也。我人われひと聖賢せいけんふあ

祢ね誰たれうあやまらぬらん唯ただ一ひと志しあ起おこし

く。おろきが也ひ紙しあゝたむれはと日ひよりしそ

よき人なり。まゝとてたにあらまよふ人乃ひと一

まひ足あしを踏ふしそ引返ひきかへをむ。本道ほんだうにあるが如

し。又また也や小人せうじん偏へんの道みちをとれ海うみをたしそ。只ただ神かみ

戒^{しん}にして生前^{しやうぜん}に福^{さいふ}といふものなり。又佛^{かみん}を信^{しん}
して死^し後のた^ごらひを祿^{りく}ふもあり。今も
乃人のた^ならふにも神^{かみ}に善^{ぜん}ふ福^{さいふ}。悪^{あく}は禍^{わざはひ}す。
いづれもあらば滅^{めつ}するはいのちす。母^{はは}として
まづひ不善^{ふぜん}なり。くわんとも何れ量^{りやう}なり。
又佛^{かみん}法^{ぽう}も慈悲^じ戒^{かい}した貪^{こん}欲^{よく}をいふものなり。

すやうれ、^よ傷^ぢるにかぎら^しに神道^{しんぢうぢう}仏法^{ぶつぽう}といふと
やうく我^{われ}方^はれ^い地^ちを^をや^をえ^えずしてそ^それ^れ教^{かう}ふかあ^あふと
いふ事^{こと}あるう^うに^に但^たし^しも^もあ^ある^るも^もあ^ある^るの^のう^うれ
非^ひち^ちや^やの^の屋^やは^はく^くん^んの^の地^ちを^をや^をえ^えずと^とい^いふ
た^たし^しひ^ひ外^{がい}に^に仁^に義^ぎは^はふ^ふま^まで^でい^いふ^ふも^も隠^{いん}悪^{あく}の^の心^{しん}と^とい^いふ
ぞと^と人^{ひと}を^を欺^きふ^ふ得^える^るも^も天^{てん}地^ちの^のま^まじ^じら^らぬ^ぬ王^{おう}法^{ぽう}の

右六諭衍義大意者。印行歲久而及近時少見之。
其論意維持風教。固不待言矣。京人勝田知卿惜
之。增加為三冊子。再布于世。但恐閭里兒童。或不便
晨昏誦讀。今有公命。特大字鐫木文。施之於泮
水。庶幾閭里兒童上學者。口誦耳熟。薰陶鎔冶。得
向于善途。若誦得此文。而更讀知卿之書。猶如嬰兒

待乳養而漸就食。其成育長立。逐序而至矣。若此
書之原始。既詳于知卿之書。故不贅。嘉永六年癸丑

中秋之月謹識岩村田臣

越智崧

識

終

